

平成28年9月11日
執行

真鶴町選挙管理委員会

選挙公報



青木たけし

(63歳)

今の真鶴に必要な3つの姿勢、「聴く町政、話し合う町政、町民に寄り添う町政」を実行します。いち町民としての4年間、多くの方々の意見を聴き、やり残した身近な問題だけでなく町政への不満や苦情が山ほどある事を実感しました。

笑顔と思いやりのある町を実現させるために3つの思いを約束します。
①みんなでつくる町・・・若者から年配の方と対話を増やし町政に活かします。

▼町外の企業との連携 ▼交流人口を増やし観光客増につなげる ▼若者や子育て世代の方々との対話の機会の創設
②活気ある町・・・人の動きや商業活動を活発にし町内に賑わいを取り戻します。

▼町の産業全体が潤う仕組みづくり ▼朝市の開催 ▼半島内に観光馬車を通します
③住民にやさしい町・・・高齢者や子育て世代が安心して暮らせる町にします。

▼防災対策の強化(宿泊体験や防災教育・仮設住宅用地の確保) ▼敬老祝い金を元に戻す ▼不妊治療費の補助 ▼小公園の整備 ▼中学校給食の4月開始 ▼新婚子育て世帯への住宅取得補助

安心と活力あふれる真鶴へと確かな道すじをつけ次世代へ引き継ぐために、町民の皆さんとともに夢と感動を分かち合える街を目指し努力してまいります。ぜひ青木たけしをご支援くださいますようお願い申し上げます。



宇賀かずあき

四年前、多くの皆様のお声に押し上げて戴き、経済復興への希望を抱いて真鶴町長の任に就かせていただきましたが、その時の真鶴は想像以上に深刻な状態でした。

健全である筈の財政をやりくりして、公約である景気倍増計画を実施しようと財政の蓋を開けたら、多くの事業が財政不足で先送りされ、さらに財調(町の財布の様なもの)は僅かしかなく、最初の仕分作業は困窮を極めました。このままでは近い内に財政再建団体になりかねず、そうなるや職員給与カットばかりか、教育・福祉等の公共予算も大幅に削減され、住民サービスは停止します。正に真鶴は瀕死の状態でした。自らの給与カットをはじめ、町内の団体や町職員の協力を得てあらゆる経費の削減を行いました。町には予算がないので、渉外担当を作り補助金・助成金を積極的に取りにかかり、町民の皆様にあつた心配・苦勞をさせずに様々な事業を実施しました。その成果が四年間募り、財調は三億円にまで回復しました。まだまだ完全とは言えませんが、災害が起こっても住民の安全は守れるだけの当座の財調は確保しました。

財政の健全化に目処を立て、いよいよ「強い真鶴」を築く為の行動に移ります。近隣・中央行政とのパイプも築き、聖域無き行政改革をも断行し、町民・議会・職員と一体となってまい進します。皆様の温かいご理解の下、二期目へのチャレンジをご支持下さい。

昭和二十七年 真鶴生まれ 真鶴小学校・真鶴中学校・城北工業高校電子科卒
昭和四十五年 トヨタ自動車工業入社(実業団サッカー)現名古屋グランパス
昭和四十七年 真鶴町役場入庁(建設課長・診療所事務局長・議会事務局長など)
平成二十四年 真鶴町長に初当選
貴船祭はやし保存会顧問 東道祖神保存会顧問

子や孫が生きる未来の真鶴が夢と希望に溢れるように

投票日 9月11日

〔投票時間〕 午前7時から午後8時まで